

子どもの虐待を繰り返してしまう母親の気持ち

キーワード：子ども虐待、母親の気持ち、心理的社会的孤立、母親支援

○小林希世¹⁾、坪川トモ子²⁾
新潟市民病院¹⁾ 新潟青陵大学²⁾

I 目的

子どもへの虐待は、親自身が抱えている怒り、悲しみ、葛藤など心の問題を表現しているともいえる¹⁾。虐待する、また虐待リスクがある親の支援への示唆を得るため、子どもの虐待をやめたいのに繰り返してしまう母親の気持ちを明らかにすることを目的とした。

II 方法

1. 対象：虐待をした母親の手記²⁾のうち、継子を死亡させてしまった継母の手記で、再婚後、継子が死亡するまでの3か月間を回顧した手記を対象とした。
2. 分析方法：手記から、虐待をやめたいのに繰り返してしまう母親の気持ちや言動が表現されている文章を抽出し、母親の気持ちや言動、およびそれらに影響したと思われる出来事を抽出した。母親の気持ちや言動はできる限り語りに忠実にその内容を端的に表すようにコード化し、時系列に配慮しながら、似ているコードをまとめ局面とした。
3. 倫理的配慮：図書館規定に従い本研究のみに使用。

III 結果

1. 対象の特性：実子を1人伴う者同士の再婚家庭。継母は、被虐待、幼少時の両親の離婚、小中学校での同級生からのいじめ、元夫からのDV歴があった。
2. 虐待をやめたいのに繰り返してしまう母親の気持ちや言動：コードは44、出来事は24抽出し、局面は「しつけ目的に体罰をするが子どもに反抗されゆとりを失う」「体罰への後ろめたさを感じ始める」「子どもが懐かないのは厳しいしつけのせいと思い始める」「誰も助けてくれず孤立しカッとなる感情を抑えらなくなる」「苛立ちを抑えられなくなる」「夫も助けてくれず更に孤立する」「殺してしまう危機感を感じても感情と行為を自制できない」の7つ生成された(表1)。

IV 考察

7つの局面から、体罰によるしつけへの後ろめたさと抑えられない感情の葛藤、夫や祖母の無理解と無視による強い孤立感の2つの視点が考えられる。被虐待歴など受容体験がない母親は完璧な母親を自身に求める傾向にあり、愛情飢餓を夫に求める¹⁾。本事例の継母は過去の経験から受容体験が乏しく愛情飢餓にあったといえ、完璧な母親になりたい気持ちとうまくいか

<引用文献>

- 1) 保坂渉. 虐待—沈黙を破った母親たち. 東京都：岩波書店;1999：240-241
- 2) 前掲1)：1-59
- 3) 上野昌江. 保健師の母親の「しんどさ」に焦点をあてた支援と虐待発生予防をめざす支援. 子どもの虐待とネグレクト. 2008；10(2)：181-187

ないあせり、夫に愛情を求めながらも理解されず心理的孤立感を強め、追い詰められていったと考えられる。虐待対応では母親の心理的社会的孤立の解消が第一優先³⁾であり、特に再婚家庭の場合は母親の心理面に配慮した支援が重要であることが示唆された。

V 結論

虐待をやめたいのに繰り返してしまう母親の気持ちは7つの局面があった。虐待を繰り返してしまう母親には、心理的社会的な孤立を解消できるような関わりが必要である。

表1 虐待を繰り返す母親の気持ちの局面と関連する出来事

局面	出来事
しつけの目的で体罰をするが子どもに反抗されゆとりを失う。	再婚し、同居する
	子育てに体罰することに夫が賛同する
	初めて継子をたたいたときに噛みつかれる 継子が赤ちゃん返りをする
体罰への後ろめたさを感じ始める	保育士から継子の顔のアザや、不自然な行動について尋ねられる
	継子が脳出血のため緊急入院する
子どもが懐かないのは厳しいしつけのせいと思い始める	理由を告げられず入院が長期化する
	病院への不信から夫が継子を勝手に連れて帰る
	継子が保育園からの帰りを嫌がって泣く 保育士が継母を視る目が微妙に変わる
誰も助けてくれず孤立しカッとなる感情を抑えらなくなる	保健センターの保健師が初めて家庭訪問に来る
	助けを求めた祖母から冷たく突き放される
	叩いても継子はいうことを聞かない
	夫に助けを求め続けても悩みを聞いてくれない 夫から母親失格宣言のような言われ方をされる
苛立ちを抑えられなくなる	夫に何度も相談するが乗ってくれない
	夫が継子を保育所から退所させる
夫も助けてくれず更に孤立する	保健師の再訪問に応じるが体調を聞くとすぐ帰る
	自殺未遂しても夫は心配してくれない
	保健師から電話がかかってくる 精神科受診を夫に相談するが理解してくれない
殺してしまう危機感を感じても感情と行為を自制できない	保健師の再電話に体調不良を伝えるが何もない
	夫に今までの育児を否定されたように言われた 継子への怒りが爆発しとりつかれたように殴った結果、救急搬送され死亡が確認される